

議決権の行使についての参考書類

第1号議案 第8期営業報告書案承認の件

営業報告書

(平成24年10月1日から平成25年9月30日まで)

1. 営業の概況・営業の経過および成果

当社発足から数期は、不慣れな管理体制等で大幅赤字を続けましたが、第5期以後は、順調な状況になり、初期の赤字を返済しつつありました。当社の活動も、ほぼ定常的な状況に入った感じでした。しかし、当期は、残念ながら売上高が減少し、数期ぶりに期末の純利益が赤字に転落してしまいました。この点を、まず株主の皆様にお詫びしなくてはなりません。新規の事業も一部ありましたが、システム構築やウェブサイト作成の対象を愛媛大学中心に絞っておりますので、大学自体の大型外部資金の獲得が以前ほどではないこともあり、大型の経費を伴う開発要求が減少しており、この面での収入が減少しております。このような状況ですので、今期も、設立当初から数期間の借入金の返済には手が回りませんでした。今後は、現状よりも広い範囲の皆様方のご要望にお応えするシステム構築やウェブサイト作成を強化し、少しでも業務状況の改善に努めてまいり所存ですので、株主の皆様方の温かいご支援をお願い申し上げます。

営業の基本は、愛媛大学内で要求されるシステムやウェブサイト等の、大学の実情を把握し、発注される皆様方との十分な打ち合わせを行い、かつ一般の企業では考えられない安価さを保つことにあります。さらに、スタッフとして活躍する大学院生等に実学体験を与えることにも大きな意味を持っており、現在の就職難時代に、弊社で十分な開発経験を有する大学院生等は、順調な進路を進んでおります。これは、実学体験はもちろんのこと、現在の学生の間で薄れている同級生や上級学年の院生・学生との触れ合いを、当社のスタッフとしては満喫できること、そこから必然的に生じるコミュニケーション力の少しでもの上昇等が大きく作用しているものと思われまます。そういう意味では、当社の大学発ベンチャー企業としての設立趣旨には、今期も合致していたと言えます。今期に当社が取り扱いました主な事業は、前期と同様、以下の分野に大別されます。いくつかに関して簡単にまとめておきます。

情報システムといたしましては、前期から継続の「フレンドシップ事業用システム」（教育学部）、「感染管理システム」（医学部・附属病院）、「看護学科ティーチングポートフォリオ・高度看護力開発事業システム」（医学部）、「授業支援システム」（工学部）、「食育システム」（農学部）、愛媛大学ミュージアムのシステム等に取り組んでまいりました。さらに、今期から新規に受注しておりますシステムとしては、愛媛大学広報課経由での「インフォメーション・コーナー」の動画システムがあり、従来からも色々ご協力いただいております株式会社パルソフトウェアサービス様のご協力、愛媛大学本部の管理棟1階で無事稼働に至っております。さらに、愛媛大学生協の「勤怠管理システム」も、種々のトラブルを克服して、稼働に至っております。一方、愛媛大学内で受注してまいりましたウェブサイトに関しましては、前期から、愛媛大学の全学部、愛媛大学ミュージアム、放送大学愛媛学習センター、教育学生支援部が管理しておられます「コンソーシアムえひめ」等の受注を受けています。新規のものとしましては、一時中断しており

ました工学部情報工学科、社会連携支援部の地域創成研究センター、工学部環境建設工学科経由の「地盤工学会四国支部」、農学部南予水産研究センターを経由しての「八幡浜どーや市場」、農学部同窓会（ユウカリ会）、愛媛大学生協ウェブサイト等に対応しております。

これらの他、共通教育「情報科学」のeラーニング用教材作成、及びオンラインテストの試験問題の作成も継続しております。前期同様に、著作権処理や愛媛大学からの代金支払い等は、教科書の作成元であります日経BP社の協力を得て進めております。総合情報メディアセンターを中心とします「愛媛大学情報基盤システム」の保守支援も、株式会社パルソフトウェアサービスの常駐保守者を支援しながら、日々の運用状況を確認する方向で継続しております。なお、前期にも継続の危機に関してお知らせしましたプログラミングコンテスト「epoch@まつやま」は、今期はなんとか工学部情報工学科で、高校生対象にしたオンラインのコンテストに変形して実施し、当社のサーバを使用して予選・本選を無事終了しました。今後の状況は、大学がどう対応されるかにかかっております。

このように、今期の当社の業務も、前期までと同様に、「愛媛大学の状況を熟知して、愛媛大学に適した便利な情報システムやウェブサイトの開発」という、当社の設立目的の一つに合致する方向を強めることができている。「愛媛大学の大学院生や学生に、IT分野の実学体験を与える」の目標も、特に大学院生がプロジェクトリーダーとなって、各業務の推進に努力しており、学生は講義では吸収できない多くの実践的知識を体験して社会に巣立っています。これらの成果は上で述べました通りです。この前段階としての工学部情報工学科の3年次学生や地域若者ステーションからのインターンシップ生も引き受けております。

なお、現在、当社に登録し、色々のシステム開発やウェブサイト設計に従事しております院生・学生(e-CISスタッフ)の総数は、以下のようになっております。

理工学研究科電子情報工学専攻(博士前期)情報工学コース	2年	6名
〃	1年	4名
理工学研究科電子情報工学専攻(博士前期)ICTスペシャリスト育成コース	2年	1名
〃	1年	2名
工学部情報工学科	4年	12名
〃	3年	4名
〃	2年	4名
合 計		33名

2. 会社の現状と対処すべき課題

上でも述べましたように、今期も、当社の設立趣旨に合致した方向での、愛媛大学の多くの教職員の方々のご協力にもより、それなりの活動を展開することが出来ました。ただ、収益が前年度より減少し、数期ぶりに売上高を総経費が上回る赤字決算となりました。このため、一段と営業利益を上げるための工夫と努力を強化する必要があります。この点に関しましては、まず、愛媛大学の教育研究活動等の活性化により、外部資金獲得額が増大し、そのためのシステムやウェブサイトの受注の増加が必要です。さらに、上と関連しますが、愛媛大学キャンパス内で展開しておられる、愛媛大学校友会、放送大学愛媛学習センター、愛媛大学生生活協同組合等の組織との連携を、より強化することがあります。ただし、現在の国立大学法人の在り方や18歳人口減を考えますと、愛媛大学内でのシステム構築やウェブサイト構

業を進めることに、それなりの限界性も考えられますので、現在の当社の基本的姿勢は保ちつつ、現在もご協力いただいております株式会社パルソフトウェアサービス様等の愛媛県内の有力情報系企業との連携を強化していく方向も探る必要があるようにも思われます。

いずれに致しましても、愛媛大学の状況を知らながら、安い価格でシステムやウェブサイト構築、維持管理を行っております当社の方向には、愛媛大学および関連組織の皆様方からは十分にご期待をいただいておりますし、当社で実学体験を積む大学院生や学生の修了・卒業後の進路や成長を考えますと、今以上に、大学や地域における当社の存在性を高めていく必要は大きいと感じております。

今後も、現在の各種業務の方向性を保ち、各々での業務をさらに発展させ、来期以降の業績回復につとめていきたいと思っております。また、株主の皆様方からは、株式配当に関するご要望も出ておりますが、これは、初期からの累積赤字の解消後ということでございますので、前期に引き続き、今期も残念ながら見送らざるを得ません。上の方向で努力を重ね、少しでも早く、皆様方のご要望にお応えできますように、努力を重ねてまいります。株主の皆様からの、一層のご支援を期待しております。

3. 業績および財産の状況の推移ならびにその説明

(以下の数値は、単位＝千円(税込)で表示しております)

売上高(千円)	10,861	(前期比	△	4,248)	
愛媛大学内各種情報システムの開発、ウェブサイト設計・制作、e-Learning 関係、e-ポートフォリオシステムの開発等					
売上原価(千円)	2,231	(前期比	△	258)	
e-CISスタッフ給与					
総経費(千円)	9,732	(前期比		465)	
法人税等を含む					
当期純利益(千円)	△	1,534	(前期比	△	4,379)
当期末未処分利益(千円)	△	21,141	(前期比	△	1,534)

なお、第8期の決算報告書として、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、同(内訳)、及び決算方法を記した個別注記表を同封いたします。

第2号議案 取締役の交代に関する件

現在の取締役である、柳田宣広から、事情によって、第8期末(9月30日)をもって、取締役を辞任し、システム開発等業務に専念したい旨の要求が提出されています。辞任要求が認められました場合には、定款第30条(最初の取締役及び監査役の任期)の規程に基づき、交代の取締役を選任する必要があります。以上のように、取締役の交代に関してははかりません。

第3号議案 取締役及び監査役の報酬額の決定に関する件

当社が取締役及び監査役に、本年10月1日から明年9月30日までに支払うべき報酬等の額の上限は1,500万円とします。